平成２４年度　病害虫発生予察特殊報　第３号

平成 24 年（2012 年）６月 19 日
山 口 県 病 害 虫 防 除 所

１　病害虫名　　チュウゴクナシキジラミ
（学名:*Cacopsylla chinensis*（Yang & Li, 1981））

２　作物名　　日本ナシ

３　特殊報の内容　　新発生

４　発生経過
（１）発生確認月日：　平成 24 年（2012 年）５月 18 日
（２）発生地域：　下関市
（３）発生状況
　下関市のナシ園で果そう部にすす病が発生し、ろう状物質や甘露の付着が認められた。また、ナシの葉ではキジラミ類と思われる成虫および幼虫が認められた。
　独立行政法人　農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所 井上主任研究員に同定を依頼した結果、チュウゴクナシキジラミであることが確認された。
　５月下旬～６月上旬に県内ナシ産地において発生状況調査を実施し、発生は下関市の一部に限られていることが確認された。
（４）他県での発生状況
　平成 23 年７月に佐賀県において国内で初めての発生が確認されている。山口県での発生は全国で２例目である。その他の県での発生は認められていない。

５　本害虫の特徴
（１）形態
　成虫の全長（頭頂から前翅端まで）は 2.2～2.8㎜（夏型）、体色は淡い橙色～青緑色まで変異が大きい。翅は透明でやや黄色味を帯びる。また、季節型（夏型・冬型）が知られる。
　幼虫は扁平、体色は黄色から黄緑色、翅芽など一部は淡い褐色である。卵は紡錘形、産下直後は白色、のちに黄色となる。
（２）分布
　本虫は、原産地の中国では広域に分布する。台湾では 2002 年に初確認後、2003 年以降は極めて高密度で発生している。
（３）生態
　成虫で越冬、早春から晩秋まで発生を繰り返し、夏季には成熟葉上でも繁殖する。
（４）被害
　中国や台湾での寄主植物は、中国ナシ及び日本ナシが知られている。
　幼虫がおもに葉の主脈付近で吸汁し、排泄物（甘露）にすす病が発生するほか、葉の黄化と早期落葉を引き起こす。台湾では果実への直接的な被害は認められていない。
６．防除対策
（１）果そう部や葉に付着する甘露や幼虫が尾部から排出する白いろう状物を目安として、本虫の早期発見に努める。
（２）登録農薬はディアナＷＤＧ、ダントツ水溶剤、ベストガード水溶剤がある。

７．参考資料等

井上広光・口木文孝・井手洋一・三島重治（2012）日本での発生が初めて確認されたチュウゴクナシキジラミ *Cacopsylla chinensis*（Yang & Li）．応動昆，56(3)（平成 24 年８月 25 日発行予定）．

図１　成虫

図２　５齢幼虫

図３　卵

図４　葉柄基部に発生したすす病

図５　葉裏に寄生した幼虫とろう状物